

第6回 全国アパレルものづくりサミット

# 変わらない現状、何を変えるか!

ものづくりに携わる、人の育成を真剣に! 若い世代が将来に希望の持てる職場を!  
自立できる工場への転換! 知識と技術を知恵にかえる挑戦をつづけよう!

実行委員と参加者全員で大討論

2018年12月15日(土)

午後1時～午後5時

学校法人文化学園 20階ホール(A201)

参加費2,000円(学生500円)

※懇親会参加は別途2,000円



「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会 主催

実行委員長 / 貞末良雄 (メーカーズシャツ鎌倉会長)

実行委員 / 稲荷田征 (日本モダリスト協会特任委員)、久米信行 (久米繊維工業会長)、近藤繁樹 (日本アパレル工業技術研究会会長)、

佐藤正樹 (佐藤繊維社長)、高倉 均 (匠の夢取締役/マツオインターナショナルマーケティング支援室長)、森奥信孝 (岩手モリヤ社長)

顧問 / 大沼淳 (文化学園理事長)、貝原良治 (カイハラ会長)

## [企画趣旨]

「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会は2010年9月、発足しました。以来9年にわたり、アパレル（衣服）と繊維の日本国内でのものづくりの危機的現状を伝え、再生に向けた事例紹介や問題提起を行ってきました。この活動は業界内外から注目され、各企業や業界団体の意識の変化や行動に一定の影響を与えることができました。

しかし、現実には、日本国内でのものづくりはさらに危機的状況に陥っています。アパレル（衣服）の輸入浸透率（数量ベース）は、2010年に95.9%から2017年に97.6%になってしまいました。※

「メイド・イン・ジャパン」のブランド価値は世界から高く評価されていますが、国内製造業の縮小傾向には歯止めが掛からず、業種によっては絶滅寸前と言っても良いものもあります。この現実を直視しつつ、この間の教訓を学びあひながら、危機を打開する行動への決起を急がなくてはなりません。

※日本繊維輸入組合『衣類の生産と輸出入の推移』

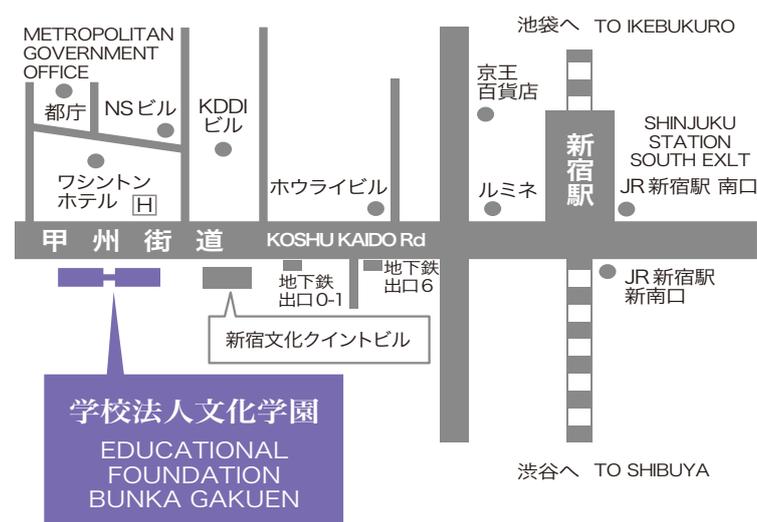
前回の「アパレルものづくりサミット」では、もはやアパレル、商社や小売業の変化を受け身姿勢で待っている段階ではないとして、「工場自身の意識と行動の変革」を取り上げました。様々な矛盾に直面しつつ、現状打開に挑む意欲的な活動事例は全国のものづくり当事者を励ました。

今回は、「変わらない現状、何を変えるか！」をテーマに、「日本発ものづくり提言プロジェクト」の7人の実行委員が見解を披露したうえで、会場に集まった参加者全員で大討論を展開します。すぐには解決できない悩みでも、みんなで考えれば次の一手が見えてくるかもしれません。各論テーマごとに、会場から発言を募り、それに実行委員が答えていきます。参加者と登壇者の双方向の討論で、繊維アパレル分野における日本発ものづくり再生の戦略・戦術的方途とやる気（元気）を見出します。ぜひ、ご参加ください。

## 討論テーマ（予定）

- ・ECビジネス、デジタル化とモノ作り、
- ・マーケティング、販路開拓（海外戦略を含む）、ブランディング、異業種への挑戦、異業種の成功例に学ぶ
- ・技術革新と生産性向上
- ・新規入社者の確保と育成、技術の継承、後継者対策
- ・既存取引先との付き合い方（取引先の無理難題を跳ね返し、共に成長する関係をどうつくるか）
- ・地域共生、コミュニティデザインによる活路

## 会場アクセス



## 学校法人文化学園 20階Aホール

JR（山手線・中央線・総武線・埼京線・湘南新宿ライン）、小田急線、京王線、都営新宿線、都営大江戸線、丸ノ内線、西武新宿線 新宿駅下車 新宿駅から徒歩で約8分  
JR 新宿駅南口より、甲州街道に沿って初台方面へ徒歩8分

## [構成]

[13:00~15:00(120分)]

第1部

繊維&アパレルのMADE IN JAPAN。現状分析と明日への展望  
～7名の実行委員が熱く語ります！

[15:00~15:15(15分)]休憩

[15:15~17:00(105分)]

第2部

登壇者(一・二部共通)

参加者の疑問・悩み、ご意見をもとに実行委員と議論します。

すぐに解決できないテーマでも、みんなで考えれば次の一手が見えてくる。



貞末 良雄 氏

メーカーズシャツ鎌倉株式会社 取締役会長

「鎌倉シャツ」を創業し、高品質の日本製シャツを廉価に提供するという究極のビジネスモデルを作り出してきた。ニューヨークに進出したのを機に、メイド・イン・ジャパンのシャツで世界ナンバーワンのSPAを目指す。自ら実践してきた世界を視野に入れたものづくりへの思いをいつも鋭く語る。今年から当実行委員会の代表に就任した。



稲荷田 征 氏

日本モデリスト協会特任委員 文化ファッション大学院大学名誉教授

三陽商会で婦人服の技術部門トップを務めたあと教育界へ。今でも産地・地域、企業などの求めに応じて全国各地で技術者育成に携わっている。同時に、ファッションの活性化に向けて新たな技術開発にも意欲的に取り組む。こうした功績が認められ、2015年に厚生労働省の「現代の名工」に選ばれ、2017年秋の叙勲で瑞宝単光章を受章した。



森奥 信孝氏

岩手モリヤ株式会社 代表取締役社長(岩手)

全国的にも知られている、高い技術力のある婦人服工場を作り上げてきた。しかし、「国内の工場が個の力だけで生き残っていくのは限界がある」として、北いわてアパレル産業振興会を立ち上げ代表理事に就任。「北いわてはアパレルの聖地だ。」をキャッチフレーズに掲げ、地元岩手県の支援を受けながら産官学のプロジェクトを推進している。



近藤 繁樹 氏

日本アパレル工業技術研究会会長 エコテック・ジャパン代表取締役

日本アパレル工業技術研究会はISO(国際標準化機構)の「TC133国内審議団体」としてEコマースを見据えたデジタルフィッティングの国際標準作りを主導する。またエコテック・ジャパン代表取締役として「J∞クオリティ」認証に携わる。これらが日本の繊維・ファッション産業を世界に飛躍させるプラットフォームになると確信している。



佐藤 正樹 氏

佐藤繊維株式会社 代表取締役社長(山形)

25年前に4代目として家業を継ぎ、世界から高く評価される紡績糸を開発するとともに、ニット製品の自社ブランドに乗り出した。また山形にカフェを併設した新しいセレクトショップも開設、今はモノだけではなくコトを売るビジネスに挑戦している。「トレンドを追いかけないことがモノ作りの基本」という熱い話は多くの人たちから共感を集めている。



高倉 均 氏

株式会社匠の夢取締役 マツオインターナショナル株式会社 マーケティング支援室長

匠の夢は新潟県見附市にあり特殊な整経機と自社で改造した織機を駆使し、他ではできない大柄の先染め織物を製造することができる世界でも数少ないテキスタイルメーカー。マツオグループの会社でメイド・イン・ジャパンの織物を生産しながら、マツオインターナショナルのマーケティング支援室長として担当を兼務している。業界内の人脈を生かしながら「アパレル企業による機屋の経営」を目指す。



久米 信行(司会進行)

久米繊維工業株式会社 取締役会長

創業83周年を迎える国産Tシャツメーカーの草分け的な存在。本業の傍ら、自身は大学でフェイスブックやインスタグラムなどSNSを駆使したベンチャービジネス、地域起しなどを指導している。当サミットでは第1回からパネルディスカッションのコーディネーターを毎回務め、見事な仕切り役を果たし高い評価を集めている。

# 全国アパレルものづくりサミット 12・15 第6回

「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会 主催 受付係行き

## 参加登録票

ご提出先 F A X : 03-5261-7075  
メールアドレス : info@apako-news.com

※会場整理の関係上、事前参加登録制とさせていただきます。  
※参加費は当日受付でお支払いください。  
※複数参加の場合は、恐れいりますが、コピーを取りお申し込み下さい

申込み締切日  
12月7日(金)

(ふりがな)	
※お名前	

ご連絡先	〒□□□-□□□□
	ご住所 都道府県 市区町村
	TEL
	E-Mail

所属 (会社・団体・学校)
どちらかに○を付けてください。
・社会人 (職種 : ) ・学生
どちらかに☑を付けてください。
<input type="checkbox"/> サミットのみ参加 <input type="checkbox"/> サミット+懇親会

参加登録票に記入していただいた、ご質問やご意見を討論に生かします。聞きたいことやご意見を簡潔にお書き下さい。

貞末良雄さんに聞きたいこと

稲荷田征さんに聞きたいこと

森奥信孝さんに聞きたいこと

近藤繁樹さんに聞きたいこと

佐藤正樹さんに聞きたいこと

高倉均さんに聞きたいこと

久米信行さんに聞きたいこと

「第6回アパレルものづくりサミット」に期待すること